

日本フランス語フランス文学会

2021 年度秋季大会

2021 年 10 月 30 日 (土)・31 日 (日)

主催支部 中国・四国支部 〒739-8521 東広島市鏡山 1-7-1 広島大学大学院人間社会科学研究所
人間総合科学プログラム 井口 容子研究室

大会本部：岡山大学 全学教育・学生支援機構・基幹教育センター 野呂 康研究室

TEL : 086-251-8545 MAIL : chushikoku2021sillf@gmail.com (お問い合わせは、なるべくメールでお願いします。)

■今大会はオンライン方式で開催します。

■大会参加にあたり招請状の必要な方は学会事務局までご請求ください。

■委員会・役員会につきましては、幹事長よりご連絡いたします。

■賛助会員展示は、オンライン会場にて開かれます。

大会費 無料

懇親会 大会がオンライン開催のため、開催されません。

第 1 日 10 月 30 日 (土)

幹事会 10 : 40 - 10 : 50

役員会 10 : 50 - 12 : 00

開会式 12 : 50 - 13 : 00

司会 宮川 朗子 (広島大学)

開会の辞・開催支部代表挨拶

井口 容子 (広島大学)

会長挨拶 小倉 孝誠 (慶應義塾大学)

*研究会 10 : 00 - 12 : 00

研究発表会

第 1 部 13 : 10 - 14 : 15

第 2 部 14 : 30 - 15 : 35

特別講演 1 15 : 50 - 17 : 05

Florence GODEAU (Université LYON III,

École normale supérieure de Lyon)

Flaubert sans frontières :

rencontres, transferts et autres métamorphoses

司会 : Marie-Noëlle BEAUVIEUX (広島大学)

特別講演 2 17 : 15 - 18 : 25

Fabienne BERCEGOL

(Université Toulouse Jean Jaurès)

L'écriture de l'émotion dans

les Mémoires d'outre-tombe de Chateaubriand

司会 : 萩原 直幸 (岡山大学)

第 2 日 10 月 31 日 (日)

ビデオセッション 11 : 00 - 12 : 00

ワークショップ 13 : 00 - 15 : 00

1. 『未来のイヴ』を再読する

——十九世紀フランス哲学・科学を起点として

2. Témoignage(s) de littérature

——文学は何を証言するのか？

3. La didactique de la littérature de langue
française en licence au Japon

総会 15 : 10 - 16 : 40

議長

平手 友彦 (広島大学)

閉会式 16 : 40 - 17 : 00

会長挨拶

小倉 孝誠 (慶應義塾大学)

閉会の辞

野呂 康 (岡山大学)

10月30日(土)

研究発表会プログラム

	第1セッション (13:10 - 14:15) *	第2セッション (14:30 - 15:35) *
A	17世紀/19世紀1 司会：永瀬 春男 (岡山大学名誉教授) 1. パスカルにおける認識の多様性と視覚イメージの結びつき——『真空論序言』を通じて 川上 紘史 (大阪大学大学院博士課程) 司会：塚島 真実 (神戸女学院大学) 2. 同時代の批評に描かれる初期ヴェルレーヌの詩人像——詩作における「奇妙さ」を中心に 山本 健二 (近畿大学非常勤講師)	19世紀2 司会：田島 義士 (関西大学) 1. 花々について詩人たちが口をつぐむこと——ボードレール、バンヴィル、ランボーにおける英雄的詩人像の裏面 浜永 和希 (東京大学) 2. テオドール・ド・バンヴィル『キュプリスの呪い』に見る現代的「ポエム」の試み 五味田 泰 (北星学園大学)
	19世紀3 司会：高橋 愛 (法政大学) 1. マネの描く黒服の男の作品における系譜的視点による特徴 松本 夏恵子 (東北大学大学院修士課程修了) 司会：福田 美雪 (青山学院大学) 2. 『味覚の生理学』における「生理学」の引用——アリアールからブリア＝サヴァランへ 加藤 三和 (立教大学大学院博士課程)	20-21世紀1 司会：福島 勲 (早稲田大学) 1. クロード・シモン『ファルサロスの戦い』——異形のエクフラシスが暴く「視点」という存在 山下 奈女美 (東京大学大学院博士課程) 2. ジョルジュ・ペレックの創作における固有名と映画——シド・シャリッスとオーソン・ウェルズまで 後藤 渡 (早稲田大学大学院博士課程)
C	20-21世紀2 司会：大森 晋輔 (東京藝術大学) 1. ピエール・クロソウスキーとアンドレ・ジッド——悪魔学という観点から 後庵野 一樹 (筑波大学大学院博士課程) 司会：綾部 麻美 (慶應義塾大学) 2. ポンジュにおけるポーランの主題の受容と変奏——「言葉の力」の解釈を中心に 太田 晋介 (大阪大学非常勤講師)	20-21世紀3 司会：塚本 昌則 (東京大学) 1. マリーズ・コンデにおける自伝性と伝記性——『悪辣な人生』と『飾らぬ人生』を中心に 森脇 慧 (日本学術振興会特別研究員) 2. 1955年のエドゥアール・グリッサン——批評記事「呪いの継承 L'Héritage de la Malédiction」を中心に 早川 卓亜 (東京外国語大学アジア・アフリカ言語文化研究所)
	20-21世紀4 司会：阿部 崇 (青山学院大学) 1. ミシェル・フーコーの翻訳論 柴田 秀樹 (滋賀短期大学非常勤講師) 司会：笠間 直穂子 (國學院大学) 2. 「お前はどんな男なのか？」——マリー・ンディアイ『大人たち』における強姦 今野 安里紗 (筑波大学大学院博士課程)	思想/表象 司会：西山 雄二 (東京都立大学) 1. エマニュエル・レヴィナスにおける闇——1941年10月26日のモーリス・ブランショへの手紙からわかること 時田 圭輔 (慶應義塾大学大学院博士課程) 司会：松村 博史 (近畿大学) 2. 恐怖の諸相としての病気表象——流行初期における感染症の描写をめぐって 内藤 真奈 (国際基督教大学)
D		

※ 発表は1件につき30分(発表25分+質疑応答5分)です。今回、各発表の間に5分間のポーズを設けておりますので、2番目の発表は分科会冒頭から35分後の開始となります。司会者は、開始時刻に十分ご注意ください。

司会 : Marie-Noëlle BEAUVIEUX (広島大学)

Florence GODEAU

(Université Lyon III, École normale supérieure de Lyon)

*Flaubert sans frontières :
rencontres, transferts, et autres métamorphoses*

L'intervention sera divisée en trois temps. Nous présenterons tout d'abord un exemple très singulier de "réécriture créatrice" de l'œuvre de Flaubert. Nous évoquerons en effet des textes de Kafka faisant implicitement référence à *L'Éducation sentimentale*, à *Bouvard et Pécuchet*, et à « La Légende de Saint Julien l'Hospitalier ». Flaubert, que Kafka lisait en français, était en effet pour lui un véritable « frère de sang »... Ensuite, après une mise au point sur la « seconde réception » de Flaubert, à savoir, celle qui se fit à partir de traductions de son œuvre, nous expliquerons comment fut conçue la base de données « Flaubert sans frontières », et les possibilités de recherche qu'elle offre. Enfin, seront présentées les questions liées au champ de recherche gigantesque ouvert par l'ensemble disparate et complexe de ce qu'Yvan Leclerc appelle les "dérivés" de l'œuvre de Flaubert, par le biais d'une présentation du livre récemment co-édité avec E. Dayre, dont voici la présentation sur Fabula :

https://www.fabula.org/actualites/sous-la-direction-d-eric-dayre-et-florence-godeaud-apres-flaubert_102097.php

司会 : 萩原直幸 (岡山大学)

Fabienne BERCEGOL

(Université Toulouse Jean Jaurès)

*L'écriture de l'émotion
dans les Mémoires d'outre-tombe de Chateaubriand*

Dès le début de sa carrière, Chateaubriand s'est rallié à un idéal esthétique inspiré de Winckelmann qui prône une représentation de la douleur contenue. Mais il a aussi voulu incarner une sensibilité nouvelle qui l'a conduit à faire place aux effets pathétiques dans ses récits : les narrateurs bouleversés par l'émotion, au point de devoir s'interrompre, auxquels il donne la parole dans *Atala* et dans *René* en témoignent. L'objectif de cette conférence sera d'observer les manifestations de l'émotion dans les *Mémoires d'outre-tombe* et de rendre compte des choix esthétiques et stylistiques qui guident l'écrivain. Nous nous arrêterons sur quelques scènes particulièrement bouleversantes (l'irruption du souvenir de Combourg, la mort de Pauline de Beaumont, l'ultime rencontre avec le roi Charles X déchu, etc.) pour voir comment Chateaubriand parvient à y concilier une émotion sincère avec les exigences d'une écriture sobre, toujours en quête de grandeur.

10月31日(日)
ビデオセッション
11:00 - 12:00

ビデオセッション		
	発表題目/発表者	コメンテーター
A	モーパッサン『死の如く強し』に見る女性の「老い」 ——『ベラミ』における男性の「老い」との比較から—— 岩田 麻由子 (明治大学大学院博士後期課程)	足立和彦 (名城大学)
B	プルーストからベケットを読む 恒石 知貞 (明治大学大学院博士後期課程)	大野麻奈子 (学習院大学)
C	証人としてのミシェル・ウエルベック 西村 真悟 (京都大学大学院修士課程)	熊谷謙介 (神奈川大学)

* AからCのセッションは並行して行われます。ビデオ(10分以内)とコメント・ディスカッション。

ワークショップ
13:00 - 15:00

ワークショップ1
<p align="center">『未来のイヴ』を再読する——十九世紀フランス哲学・科学を起点として</p> <p align="center">コーディネーター：福田裕大 (近畿大学) パネリスト：野田農 (早稲田大学)、相澤伸依 (東京経済大学) 上尾真道 (京都大学)、中筋朋 (京都大学)</p> <p>ヴィリエ・ド・リラダンは、多くの文学史において「科学」や「実証主義哲学」に反抗した作家として紹介される人物だが、実際には当時の科学・哲学の先端的動向にかなり強い関心を寄せていたことが見て取れる。とりわけ『未来のイヴ』という作品は、その文章の少なからぬ分量を件の人造人間「ハダリー」の身体描写に割いており、それら一連の記述のなかには、身体をめぐる同時代の知との深い繋がりを感じさせる要素が認められる。</p> <p>例えば、ハダリーのモデルとなるアリシア・クラリーの身体が、写真や録音技術をはじめとする記録機器によって客観的にデータ化されうる、との想定がある。あるいは、神経系を思わせる金属線のネットワークが、人造人間の各部位を連関させて、ひとつの身体機能を生み出していく過程を執拗に描写するパートも存在する。一方で、こうした当世の神経生理学に通じる身体理解を積極的に取り込むようでありながら、同じく一世を風靡していた心霊主義・神秘思想に通じる概念が本作には頻出している。作品中で唐突に展開される「ソワナ」の憑依をめぐるエピソードは、それまでに幾度も強調されてきたハダリーの機械的=自律的な身体のあり方と真っ向から対立するものだ。</p> <p>このように見てみれば、『未来のイヴ』は単純な意味での「科学風刺小説」などではなく、当時のフランスで生じていた身体観の揺らぎをめぐる複数の声を随所に配置した、ポリフォニックな身体論として読むことが可能である。本ワークショップでは、登壇者たちがこれまで共同で進めてきた19世紀フランス哲学研究を基盤とすることで、こうした新たな『未来のイヴ』読解の可能性を開拓してみたい。当日は、コーディネーターの福田が問題提起を行ったのち、まず野田が決定稿に先立つ幾つかの草稿テキストを分析し、作品の生成過程をたどる。相澤は、フーコーの思想に依拠しつつ、文学・哲学・科学という複数の言説領域を相互浸透的なものとして捉えるための理論的提言を行う。上尾は、『未来のイヴ』執筆時期におけるフランスの精神医学・哲学の文脈を再構成しつつ、小説の主題のいくつかについて考察を行う。中筋は、この小説を幻想小説、探偵小説、空想科学小説として読む可能性を提示したうえで、世紀末文化への位置づけを試みる。</p>

ワークショップ2

Témoignage(s) de littérature——文学は何を証言するのか？

コーディネーター：辻川慶子（白百合女子大学）

パネリスト：Judith Lyon-Caen (EHESS)、Dinah Ribard (EHESS)

嶋中博章（関西大学）、杉浦順子（広島修道大学）

文学と歴史、証言と文学というテーマは、文学研究の中でも重要な主題となって久しく、19世紀における歴史叙述の誕生、20世紀における災禍と証言、記憶と歴史の問題など、多くの領域で活発な研究が行われている。しかし、歴史研究者と文学研究者が実際に対話を行い、「文学」についてともに論じる機会が十分であったとはいまだに言えないだろう。本ワークショップでは、独自の視点から文学テキストを研究対象とする社会科学高等研究院 (EHESS) のジュディット・リオン・カンとダイナ・リバル、および17世紀メモワール（回想録）を研究する嶋中博章（『太陽王時代のメモワール作家たち』（2014））の三名の歴史研究者を呼び、登壇者および会場の文学研究者との対話の場とすることを目指している。

19世紀文学を主な研究対象とするジュディット・リオン・カンと思想史家ダイナ・リバルは、『読むことと生』（リオン・カン、2006）、『歴史、文学、証言』（リバル他、2009）などそれぞれの著書に加えて、文学と歴史記述に関わる分析方法や領域を紹介する『歴史家と文学』（2010）を共著で発表している。文学作品あるいは文学の果たす作用自体をも歴史研究の対象として再検証するリオン・カンとリバルは、それぞれ19-20世紀、17-20世紀という幅広い領域で文学と証言の問題を扱う気鋭の研究者である。

ワークショップでは「文学は何を証言するのか？」という問題をめぐって、まず嶋中がリオン・カンとリバル、および二人が所属するGRIHL（文芸事象の歴史に関する学際研究グループ）について、歴史学の方法論という観点からその意義を紹介する。その上でリオン・カンが19世紀文学を中心に、リバルが文芸事象を歴史事象として捉える際の問題と方法に関して基調報告を行い、杉浦が文学に価値を付与する手段としての文学賞について論じる。文学あるいは文芸事象は、ただ同時代の歴史を歪んだ形で反映する記録であるのみならず、文学自体が歴史に作用し、歴史を形成する点を見落としてはならない。文学が「記録」であり、かつ歴史的「事件」でもあるという視点から捉え直すなら、文学は「何かを証言する」と同時に、「文学そのもの」が証言であると言えよう。なお、報告は嶋中が日本語で行うが、それ以外の報告と質疑応答は主にフランス語で行う予定である。

ワークショップ3

La didactique de la littérature de langue française en licence au Japon

コーディネーター・パネリスト：Marie-Noëlle Beauvieux（広島大学）

パネリスト：Éric Avocat（大阪大学）、Raphaëlle Brin（京都大学）、Yosuke Fukai（東北大学）

Les publications récentes concernant la théorie et la didactique de la littérature en français et en japonais soulignent l'importance des savoir-faire au service d'une lecture distanciée – seule à même de permettre à l'étudiant de « s'emparer du pouvoir de poser les questions qui comptent, plutôt [que de] se contenter de répondre à celles qu'aura formulées autrui » (Citton, 2007). Mais elles soulignent aussi le rôle fondamental de l'appropriation des œuvres dans la construction de soi et d'un rapport durable avec la littérature.

Dans notre atelier, nous interrogerons les possibles et les limites de ces approches à l'aide d'exemples concrets d'expériences pédagogiques. Après avoir donné un bref aperçu de l'état actuel de la didactique de la littérature française en France et des possibilités de son intégration dans des cours bilingues (Marie-Noëlle Beauvieux), nous nous intéresserons à la possibilité d'un cours monolingue d'initiation à la stylistique du texte littéraire (Raphaëlle Brin). Il convient de ne pas oublier que la littérature prolonge les usages courants de la langue, dont elle explore et enrichit les ressources expressives : chansons, lettres, récits, discours constituent ainsi un matériel pédagogique de choix (Éric Avocat). Hors de la classe, nous verrons comme il est possible d'élargir les possibilités d'appropriation des œuvres littéraires dans le cadre d'un projet linguistique de tournage de film (Yosuke Fukai).

オンライン関連情報

I：大会までのご準備

・本大会では、ウェブ会議システム zoom (<https://zoom.us>) を使用します。あらかじめ、ご使用の PC やタブレット端末等に zoom アプリ (無料版で可) をインストールしていただきますよう、お願いいたします (【参考】 zoom PC アプリのインストールの方法 : <https://zoom-japan.net/manual/pc/zoom-pc-app/>)。

・分科会発表要旨 PDF は、学会ホームページ (<http://www.sjllf.org>) にパスワードをかけてアップいたします (10 月中旬予定)。

・開会式、分科会、特別講演、ワークショップ、ビデオセッション、総会、閉会式、および賛助会員展示会場の zoom ミーティング情報 (ミーティング ID、パスコード)、発表要旨閲覧用のパスワードおよびビデオセッションのビデオ閲覧に関する情報は、事務局より一斉メールでお知らせします (10 月中旬予定)。メールアドレスの登録がお済みでない会員の皆様におかれましては、これを機に事務局へのメールアドレスの登録をお願いいたします (メールアドレス登録 : 学会ホームページ > 「事務局より」 > 「個人会員用 登録情報の変更」)。

・本大会の zoom ミーティング情報や発表要旨閲覧用パスワード、さらにビデオセッションのビデオ閲覧に関する情報や分科会発表要旨 (電子版) は、本会員のみでの利用とさせていただきますので、情報の取り扱いには十分ご注意ください。非会員で参加を希望される方がありましたら、1)お名前 2)ご所属 3)参加を希望される分科会やビデオセッション、特別講演、ワークショップ (複数可) を、10 月 28 日 (木) までに本大会実行委員会 (chushikoku2021sjllf@gmail.com) までメールにてご連絡ください。zoom 情報をお知らせいたします。

・その他、オンライン大会にかかる最新情報は学会ホームページを適宜ご確認ください。

II：大会当日の留意事項

参加者はすべて zoom 上で表示される名前 (アカウント名) を 学会登録名と同一のもの にしてください (漢字・アルファベ・カタカナ可)。アルファベの場合は、OKAYAMA Momoko のようにお願いいたします。

アカウント名の変更方法について

アカウント名が本人氏名ではない場合、以下の手順で本人氏名にご変更をお願いします。

1. 画面下部にある“参加者”のタブをクリック
2. 名前欄が表示されるので自分の名前をクリック
3. 「名前の変更」ボタンが現れるのでクリック
4. 本人氏名に変更して完了

・接続にあたり登壇者および司会者以外は ビデオオフ、マイクミュートの状態 でご参加ください。

・録音や録画、スクリーンショット撮影等を行い、許可なく配信・転送することはお控えください。